

BACCALAURÉAT GÉNÉRAL

SESSION 2015

JAPONAIS

LANGUE VIVANTE 1

Durée de l'épreuve : **3 heures**

Séries **ES** et **S** – coefficient : **3**

Série **L** Langue vivante obligatoire (LVO) – coefficient : **4**

Série **L** LVO et Langue vivante approfondie (LVA) – coefficient : **8**

L'usage des calculatrices électroniques et du dictionnaire est interdit.

Dès que ce sujet vous est remis, assurez-vous qu'il est complet.
Ce sujet comporte 5 pages numérotées de 1/5 à 5/5.

Répartition des points

Compréhension de l'écrit	10 points
Expression écrite	10 points

さいとうきょうじゅ
齋藤教授の大発見

5 ヒトは、乗りもの酔いや食中毒¹などでしばしば吐きます。ペットを飼っていた人ならば知っていると思いますが、イヌやネコもまたヒトと同じように吐きます。一方、研究者がよく使う実験動物であるネズミやウサギはけっして吐きません。吐くための脳回路が備わっていないからです。要するに吐き気止め薬の研究にはラットやマウス²が使えないわけです。そこで、嘔吐³の研究にはイヌやネコを実験台にして使わなければなりません。これはデメリット⁴です。イヌやネコはネズミよりも大形の動物ですから大規模の飼育施設が必要ですし、そもそも一日に何匹も検査することができません。また効能⁵を調べたい試薬や薬物も、多くの量が必要になります。つまり、嘔吐の研究の現場では「小形で嘔吐する動物」が必要とされていたのです。

10 そんな中、齋藤教授は当時、「スunks」⁶とよばれる体長十五センチメートルほどの小形の動物（南日本から台湾にかけて生息するモグラの一種）を用いての肝臓⁷の研究をしていました。ある日教授は、肝硬変⁸がいかにか生じるのかを調べるために、スunksにアルコールを投与⁹しました。するとスunksが吐いたのです。驚いた教授は周囲¹⁰に「スunksは吐くぞ！」と興奮しながら言いました。すると周囲の人々は「何を今さら」といった表情
15 で「そりゃ、そうですよ」と平然と答えたそうです。

このとき齋藤教授と周囲の研究者の違いは何だったのでしょうか。そうです。齋藤教授は問題意識¹¹をもっていたのです。嘔吐の研究には今どんな問題があつて、何が望まれているのかを知っていたのです。一方、周囲の研究者たちはこれまでも何度もスunksが嘔吐する様子を見てきたにもかかわらず、それが嘔吐研究にどれほど重要な意味があるのかを理解

¹ 食中毒 : intoxication alimentaire

² ラットやマウス : 共にネズミの一種

³ 嘔吐 : 吐(は)くこと

⁴ デメリット : 短所

⁵ 効能 : efficacité

⁶ スunks : suncus

⁷ 肝臓 : le foie

⁸ 肝硬変 : 肝臓の病気の一つ, une cirrhose

⁹ 投与する : donner

¹⁰ 周囲 : les alentours

¹¹ 意識 : la conscience

20 していなかったのです。その後、unksが^{こくさいてき}国際的な実験動物となつて^{おうと}嘔吐研究に^{こうけん}貢献したのは言うまでもありません。

「発見」とは^{たん}単に「初めて見る」という意味ではありません。「ただ見る」だけでは発見ではありません。目の前に見えている事実の重要性に気づいてこそ「発見」なのです。

25 重要性に気づくためには問題意識^{いしき}をもっていなければなりません。一体、自分は何を知りたいのか、世間が何を^{ほつ}欲しているのか、何がまだ^{かいめい}解明されていないのか、どんな事実がわかればその後どんな道が開けるのか。こうした問題意識^{いしき}をもっていなければ発見はありません。

30 その一方で、発見が「偶然^{ぐうぜん}」に^{ささ}支えられていることも多々あります。^{さいとうきょうじゆ}齋藤教授もunksにアルコールを^{とうよ}投与するという実験を偶然^{ぐうぜん}に行ったからこそ、大発見が^{おとず}訪れたのです。しかし、この発見が「単なる偶然^{たん ぐうぜん}」ではなかったことは、^{しゅうい}周囲の^{へいぼん}平凡な研究者が同じ事実を見ていたのに「発見」できなかつたことが物語っています。

^{いげがゆうじ}池谷裕二「^{のう}薬の開発のために脳をきわめる」より

TRAVAIL À FAIRE PAR LE CANDIDAT

- 1) Les candidats traiteront le sujet sur la copie qui leur sera fournie en faisant apparaître la numérotation.
- 2) Ils composeront des phrases complètes sauf indication contraire.
- 3) Les citations seront limitées aux éléments pertinents et suivies de la mention de la ligne.

COMPRÉHENSION DE L'ÉCRIT

Tous les candidats traiteront les questions suivantes

Répondez aux questions suivantes en japonais.

1. どうしてウサギは吐きませんか。
2. 嘔吐の研究に、どうしてイヌやネコを使わなければなりませんでしたか。
3. 「これはデメリットです。」（6行目）とありますが、テキストの中から「デメリット」の具体例を二つ挙げてください。
4. 齋藤教授は肝臓の研究をしていたときに、何を発見しましたか。
5. 「驚いた教授」（13行目）とありますが、そのとき周囲の人々も驚きましたか。また、それはどうしてですか。
6. 「嘔吐の研究には今どんな問題があって、何が望まれているのかを知っていたのです。」（17～18行目）とありますが、「どんな問題」があって、「何が望まれて」いましたか。説明してください。
7. テキストによると、「発見」とはどういうことですか。
8. 「こうした問題意識」（26行目）とありますが、例えばどんな意識ですか。テキストの中から二つ挙げてください。
9. 「「発見」できなかった」（31行目）とありますが、周囲の研究者はどうして発見できなかったのでしょうか。

Seuls les candidats composant au titre de la LVA (Langue Vivante Approfondie) traiteront également les questions suivantes

10. テキスト1行目「乗りもの酔い」とは、どんな病気ですか。例をあげて、具体的に説明してください。
11. 嘔吐研究に「スunks」を使うことによって、どんな効果が期待できますか。

EXPRESSION ÉCRITE

Seuls les candidats des séries S et ES et ceux de la série L qui ne composent pas au titre de la LVA (Langue Vivante Approfondie) traiteront la question suivante

あなたが、えらいと思っている人は誰ですか。どのように、人類に^{じんるい} ^{こうけん}貢献した人ですか。
(貢献する : rendre service) (400 signes)

Seuls les candidats composant au titre de la LVA (Langue Vivante Approfondie) traiteront la question suivante

研究のためにたくさんの動物を実験に使いますが、それについてどう思いますか。あなたの意見^のを述べてください。(400 signes)